Laurence Sterne の蔵書カタログにおける書籍商の方略

高野 美千代

A Study of the Catalogues of the Library of Laurence Sterne

TAKANO, Michiyo

Abstract

This study examines the catalogue of the books from the library of Laurence Sterne. The catalogue was published by the York booksellers Todd and Sotheran in 1768, just after Sterne had passed away. It was not an unusual practice in England that families sold the library of a deceased person, and the booksellers made catalogues for the sale and distributed them to the prospective customers.

The catalogue contains a great deal of information about Sterne, but at the same time it also tells us what the booksellers intended to do, and what kind of books were actually read, or were expected to be read, by the contemporary readers. This study concentrates on analyzing the books as well as the booksellers' tactics and examines the way they made the catalogue as their business tool.

Key words：Laurence Sterne, 蔵書カタログ、Todd and Sotheran, 書物史

はじめに

書物史の研究においては、個人の蔵書を調査して、書物の受容を検討するというアプローチが可能である。たとえば17世紀英国の書物史を考察するとき、17世紀の蔵書家を取り上げ、その蔵書を調査すると、時代の書物受容の実態の一側面が明らかになる。個人の思考、思想を知る上でも重要であるし、当時の時代思潮が繁栄される部分もある。また、書物本体からは書物製作にかかわる事項、パラテクストに関連する事項が浮かび上がる。現在でもよく知られ、豊富なコレクションが残っている代表的な例としては、ジョン・カズン（John Cosin, 1594-1672）とサミュエル・ピープス（Samuel Pepys, 1633-1703）を挙げることができる。ジョン・カズンは高教会派の聖職者として知られ、北イングランドのダラム大学にライブラリーが残されている。そこではカズンが学生時代から蒐集した数千冊の貴重な書籍が、現在でも閲覧できるように配架されている。カズンライブラリーについては、シェイクスピアのファーストフォリオが盗難に遭ったものの10年の時を経て元の場所に戻ったというエピソードが有名である。ファーストフォリオをはじめ、古典からルネサンスの貴重書籍を数多く含むコレクションは世界有数のものである。一方のピープスは王政復古期の官僚であり、1660年代の日常を綴った日記作家としてもよく知られる。彼が寄贈したケンブリッジ大学のピープスライブラリーも、カズンライブラリー同様に訪れる者に対して開かれている。ピープスは自身の蔵書に大いにこだわりを持ち、書棚や書物の並べ方そして独特のバインディングも大変興味深い。どちらの例も、その時代にどのような書物蒐集が行われたか、どのような書物文化があったのかなどを浮かび上がらせる豊かな情報を備えた個人蔵書である。

本論考では、聖職者で小説家のローレンス・スターン（Laurence Sterne, 1713-1768）を例に、18世紀の一個人蔵書を分析し、その傾向を考察したい。スターンは晩年を北ヨークシャのコックスウォルドの牧師館で過ごした。シャンディホール

山梨県立大学　国際政策学部　国際コミュニケーション学科
Department of International Studies and Communications, Faculty of Glocal Policy Management and Communications, Yamanashi Prefectural University

と呼ばれるようになったその屋敷には彼が使用した書斎がある。そこに蔵書が残されていれば、カズンやピープスの例と同じように、書物のタイトルだけではなく、バインディングなどの特徴を含めて全体像を概観することができる。しかし残念ながらスターンの蔵書は売却され、一か所にとどまることはなかった。一方で、売却のためカタログが作成されたことによって、スターンの蔵書内容を知ることができるのも事実である。そのカタログ作成を担当したのはヨーク市内の書籍業者 Todd and Sotheran である。この論考では 1768 年に発行された “A Catalogue of a Curious and Valuable Collection of Books, Among Which Are Included the Entire Library of the Late Reverend and Learned Laurence Sterne” をもとに、スターンの蔵書内容と、それを作成した書籍業者の販売戦略とも言える工夫を考察する。カタログから読み取れる様々な情報を取り上げ、検討していくことによって、新たな知見を得たい。[1)]

1．スターン蔵書オークションカタログにおける Todd and Sotheran のねらい

スターンは 1768 年に没したが、その後彼が所有していた身の回りの物はすっかり売りに出され、かつ、彼の蔵書は販売用にカタログ化された。つまり、現在シャンディホール（スターンが居住した牧師館）にある書籍は、スターンが書斎にそのまま残したものではなくて、たとえばいったんは売りに出されたものが再び買い戻されたものであるか、あるいはまったくスターンの蔵書ではないものということになる。書斎自体は当時をそのまま伝える独特の雰囲気を持つ一室なのであるが、カズンやピープスのライブラリーとの決定的な違いはそこにある。しかしながら、これから検討する販売用カタログによって、スターンが生前所有していたと思われる書籍は明らかになる。

英国では著名人などの蔵書は死後オークションにかけられる例が頻繁にあり、現代においても珍しいことではない。スターンの場合は、亡くなった 1768 年 3 月から 5 カ月後の 1768 年 8 月にオークションが行われている。オークションカタログを作成し蔵書の売却を扱ったのは北イングランド、ヨーク市内の有名書店 Todd and Sotheran であった。この書籍商はヨーク市内、ストーンゲイトの業者であり、スターンの代表的作品『紳士トリストラム・シャンディの人生と意見』（*Life and Opinions of Tristram Shandy, a Gentleman*, 1759-67）の第 1 巻を出版したフランシス・ヒルドヤードが経営した書店、The Bible を彼の死後に引き継いだ形で 1761 年に創業した。サザランと言えば、現在もロンドンで商売を続ける有名店である。この書店サザランは、まずローレンス・スターンの蔵書オークションを行ったことが大きな業績の一つとなったが、のちにヴィクトリア朝小説家チャールズ・ディケンズの蔵書カタログも作成したことで知られる。

スターンのオークションカタログのタイトルページを見ると、カタログに収められた本が故ローレンス・スターンの全蔵書を含むものであること、1768 年 8 月 25 日木曜日に販売を始めることが記されている。しかも、大変な廉価で（“exceeding cheap”）販売すると断っている。また、目玉となる数冊の書籍名も示されている。一方で、Nicolas Barker が書いているように、カタログ上のすべてがスターンの蔵書であったのか疑問は残る。Barker は論考 “The Library Catalogue of Laurence Sterne” においてスターンの蔵書を含むこのカタログを概観した。Barker は、スターンが実際に所有していたと思われる書物はカタログ内の No. 54 あるいは 55 から No. 2352 と述べている。[2)] この論考においてはまずカタログのタイトルページに注目し、そこから得られる情報を取り上げることとする。具体的には、タイトルページに収められた工夫を考察し、書籍商が全 2 千点以上のアイテムから特に厳選して紹介したごく一部の本の内容を吟味することによって、そこに表れた書籍商の狙いを分析したい。

カタログの表紙を図 1 に示す。タイトルは “A Catalogue of a Curious and Valuable Collection of Books, Among Which Are Included the Entire Library of the Late Reverend and Learned Laurence Sterne” となっており、「今は亡き学識豊かなロー

レンス・スターン師の全蔵書を含む、素晴らしく価値のある書物コレクションのカタログ」との意味になる。さらにスターンについては「ヨーク大聖堂参事会員」であり、『トリストラム・シャンディ』やその他機智とウィットに富んだ作品の著者と紹介している。つぎに、ほとんどの書物の状態が良好であること、また、バインディングが美しいことが書かれている。つぎに、代表的な目玉商品が紹介される。これについては後述する。そして、これらの書籍が 1768 年 8 月 25 日木曜日から販売されることが示されている。販売場所はヨークの書店 Todd and Sotheran である。Todd and Sotheran は書籍商 Francis Hildyard の後継であるということも併記されている。あえてこの事実に触れた理由はいくつか推測でき、第一には Hildyard の知名度が高かったことが挙げられる。店はヨーク市内のストーンゲイトに位置するが、聖書を店の目印に掲げた Hildyard の店は 1682 年にオープンし、それ以来数多くの書籍を扱っていた。ヨークは北イングランドにおける書物文化の中心地であり、そこで主要書籍商として活躍していた彼の店を引き継いだと示すことは、書籍業界そして購読者層からの信頼を得ることに当然つながるもので、Todd and Sotheran としてもそれが有利に働くとのもくろみがあったであろう。

表紙の下部においてはカタログの入手場所が示されている。フリートストリートのホワイト、パターノスターロウのジョンソンなど、ロンドンの書店が数軒紹介され、つぎにロンドン以外の都市ケンブリッジ、オックスフォード、エジンバラ等の書店でも扱われていることが示される。もちろん Todd and Sotheran でも扱っており、カタログは無料で配布された。イングランド全体、さらにはスコットランドにもカタログの配布が行われたのであるから、当時としては一大事業であったはずである。

表紙に掲載された目玉商品について次に述べたい。カタログの中から書籍商自身が厳選して、特に重要な書籍を紹介していることは言うまでもない。フォリオ・クォート・オクテイヴォの 3 種の判による書物がサイズの大きな順にリストアップされている。まずはフォリオから概観しよう。第一に紹介されているのは 1474 年の William Caxton 英訳による *Game (and Playe) of the Chesse* である。この書物は歴史上、英語で印刷された 2 番目の本であり、18 世紀当時でも間違いなく貴重書として扱われていたであろう。[3] 原作はドミニコ会修道士 Jacobus de Cessolis (c1250 - c1322) による 1300 年頃の作品とされ、ラテン語による。1474 年の翻訳であるこの本の初版は 1476 年にブルージュで出版された。1484 年の第 2 版はロンドンで印刷され、木版画の挿絵も使われるようになった。カタログ中の *Game of Chess* は現在英国マンチェスター大学のジョン・ライランズ図書館が所蔵する英国書物史上重要なインキュナブラである。

続いて示されているのは Francis Drake[4] の *York* すなわち *Eboracum: or the History and Antiquities of the City of York, from its Original to the Present Times. Together with the History of the Cathedral Church, and the Lives of the Archbishops of that See, from the first Introduction of Christianity*（1736）である。Drake はエリザベス朝の Sir Francis Drake とは血縁関係がないようであり、父親はヨークシャの国教会聖職者であった Francis Drake である。彼自身は好古学者として故郷ヨークシャの故事と歴史をフォリオ判 800 頁の大作に整えた。サブスクリプションによる出版で、540 人ほどの予約購読者を得た。その多くが聖職者であり、カンタベリー大司教やロンドンの司教も含まれていた。当時のヨーク大司教 Lancelot Blackburne はこの書物の出版に好意的ではなかったため、著者による再三の依頼にもかかわらずサブスクリプションに応じなかったという。したがって購読者一覧に彼の名前はない。そこにはスターンの名前もないが、“Richard Sterne, Esq.” というエントリーをみつけることができる。これは推測の域を出ないが、スターンの叔父（父の兄）リチャードの可能性がある。ただし Richard Sterne が購入した本には大型判を示す星印がついていないため、カタログの表紙で紹介されているもの（“Large Paper”）とは一致しない。だがカタログ内部を見てみると、そこでは同じ本が 2 部続けて紹介され

ている。初めの1部はおそらくカタログ表紙の物であり、フォリオ大判で大変稀少（exceeding scarce）であるとされる。つぎに紹介されるものは大判とは書かれないものの装丁の美しさが強調されている。ロシア皮で製本され、ページの端はギルトトップ（金の縁）加工が施されている。さらにDuncansonという（おそらくヨーク市内の製本職人の）名前を出して、価値を知る人の注目を集めるよう意図されている。[5)]

間違いなく言えることは、カタログ取扱業者のTodd and Sotheranはヨークシャの地誌を主に扱っていたため、*Eboracum*には大いに興味を持っていたはずである。また、ヨークシャに住む牧師であったスターンが地誌を書斎に置いたことは当然と考えられる。さらに同じ本が複数置かれるのは、牧師館の本は教区の信徒にとって閲覧あるいは貸出が可能であったからだろう。17世紀からトポグラフィーは多くの英国民の関心事となっていた。

つぎに示されるのはJohn Guillimの*A Display of Heraldry*である。タイトルからもわかるようにこの書物は英国の紋章を主題とするもので、初版が1610年、市民革命を挟んで版を重ね、王政復古後も継続して多くの読者を得た。王政復古期の日記作者として有名なSamuel Pepysも、妻の希望でこの本を購入したことを記録している。18世紀になると1724年に第6版が世に出された。カタログ表紙では“best edition”との説明がついているがそれ以上の詳細はわからない。ただし、カタログの中を見ると、そこにはHeraldryが2冊紹介されていて、うち1冊は第5版（最新版の前の版）であることが示され、もう1冊が最新の第6版（1724年）で“best edition”との説明がつき、つまり表紙で紹介されているものである。価格も第6版のほうが第5版よりも高く、装丁も凝っているものと見受けられ、稀少（scarce）と書かれている。表紙で紹介するに値するものと判断されたのであろう。

続いてChambersによる事典（1738）全2巻が紹介される。これはEphraim Chambersが編纂した世界最初の百科事典と言われるもので、初版が1728年、増補改訂されたこの第2版が1738年、その後1739年に第3版、41年に第4版、43年に第5版が出された。18世紀の英国社会で大いに人気を博した書籍である。

つぎはJohn Lockeの作品集全3巻（1727）が挙げられる。Lockeは17世紀の哲学者であるが、18世紀英仏の啓蒙主義に多大な影響を与えている。1714年に初版が出され、1727年出版のこのセットは第3版に当たる。

つぎに名を連ねるのはWilliam Stukeley（1687－1765）の*Itinerary*である。この本は好古学研究の領域に入るもので、正式なタイトルは*Itinerarium curiosum. Or, an account of the antiquitys and remarkable curiositys in nature or art, observ'd in travels thro' Great Brittan*である。Stukeleyは17世紀に盛んに行われた好古学研究を継続する形でローマ時代のブリテン島の歴史あるいはケルトの文化を辿り、精力的に研究発表を行った人物である。当時の好古学者が中世あるいはゴシックに関心をシフトさせていたのに対し、Stukeleyはそれ以前の時代に目を向けていた。100以上の挿絵を含むこの書物はストーンヘンジをはじめとする遺跡の現地調査を基にしたものである。版は1724年のものだけとなることから、一般に関心を集めた書籍とは考えにくい。装丁についてはカタログ内部で説明が付加されていて、ロシア皮が使われギルトトップであること、大変稀少であることがわかる。注によれば初めの2枚が汚れているとのことだが、価格は示されていない。

つぎはPaul de Rapin de Thoyras（1661 － 1725）の*History of England*全5巻である。全5巻とは言っても、RapinのオリジナルにNicholas Tindal（1687 － 1774）による続編が加わったものである。Tindalが翻訳したこの歴史書は、当初オクテーヴォ判で1725年から31年にかけて全15冊が出版された。この書物は英国の教会と国家の歴史を扱うものであり、当時大変な人気を博し、何度も版を重ねた。カタログに示されている「1732年その他」という年号から推測するとRapinによるセカンドエディション全2巻（1732年～1733年出版）で、それにTindalが執筆した続編（第3

巻第 4 巻と位置付けられている）及び付録または要約が第 5 巻として添えられたのであろう。

このあとには William Borlase（1696－1772）の Cornwall が続く。“2 vols” と書かれているが、これは *Observations on the antiquities historical and monumental, of the county of Cornwall*（1754）と *The Natural History of Cornwall*（1758）を 2 冊セットにしたものと推測される。タイトルが示すようにこの書物も好古学書であり、コーンウォール州の地誌を扱うものである。これと同じようにある地方地誌を扱うものが続いて紹介されていて、William Dugdale の *Warwickshire*、Robert Plot（1640－1696）の *Oxfordshire* はともに 17 世紀の好古学研究書の古典である。いずれの版であるかはカタログ内に示されており、Dugdale の *Warwickshire* は 1766 年版、Plot の *Oxfordshire* は 1677 年の初版となっている。

Dugdale はエリザベス朝の William Camden の流れを汲む近世英国を代表する好古学者であり、*Warwickshire* は初版が 1656 年、第 2 版の増補版は 2 巻本となって 1730 年に出版されている。ともにロンドンの書籍業が取り扱いを行った。そしてカタログに掲載された 1766 年のものは 1656 年の初版本を忠実に復刻したものである。初版と増補版の出版地がロンドンであったのに対し、この版はコヴェントリ（ウォリックシャ）の書籍商 John Jones によるものであった。一方の Plot の *Oxfordshire* は 1705 年に第 2 版となる増補版が出版されているが、カタログに掲載されたものは 1677 年の初版本である。これら一連の書籍は、トポグラフィーのジャンルに属する作品群となっている。

つぎに植物の歴史を扱う *The herball or Generall historie of plantes* が紹介される。この本は John Gerard（c.1545－1612）が執筆した 1597 年の初版本に、Thomas Johnson が手を加えて 1633 年に出版し当時大人気を博した書籍である。タイトルから推測するところでは科学の分野を扱う書物のようであるが、実際には英国の地方に固有の珍しい植物を紹介するなどし、好古学的価値をも孕む作品となっている。

その他紹介されるフォリオは 2 冊の歴史書であり、17 世紀に出版されたフランス史とスペイン史である。Mezeray の *History of France* は 1683 年 John Bulteel によって翻訳され出版された。4 世紀頃から 17 世紀初頭までの歴史を扱っている。一方の Mariana によるスペイン史は 1699 年に出版された John Stevens による英訳である。2 種の多言語書籍（宗教書、聖書）、そしてフランス語の宗教関連書籍である。

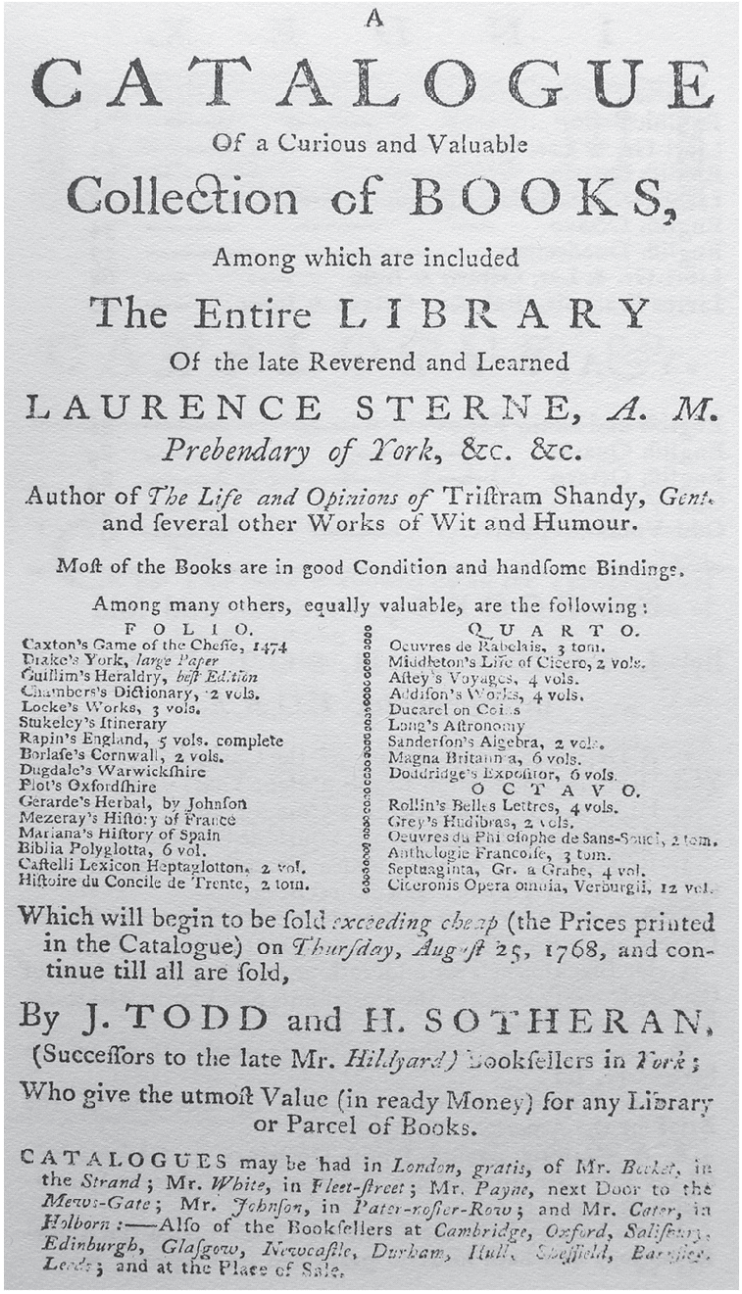
このうち、多言語書籍について言及したい。ここに掲載された *Biblia Polyglotta*（1657）は全 6 巻の大作である。聖職者 Brian Walton（1600-61）による多言語聖書である。9 言語（ヘブライ語、カルデア語、サマリア語、シリア語、アラビア語、ペルシャ語、エチオピア語、ギリシャ語、ラテン語）が用いられている。同じ書物に複数の言語の活字（タイプ）が使用された初期の貴重な例である。同時に紹介されている Edmund Castell（1606-85）による *Lexicon Heptaglotton*（1669）は 2 巻本であるが、カタログ中では *Biblia Polyglotta* とセット販売されている。これには理由があり、Castell は *Polyglotta* 作成時に Walton の補助をしており、この Lexicon は *Polyglotta* が扱う 9 言語のうちギリシャ語とラテン語を除く 7 言語の「辞書」であったからである。壮大な計画の下に作成された書物であったものの、需要は少なく結果的には著者の生活を脅かすものとなってしまった。出版後、約一世紀を経てカタログに登場したこれらの書物はセットで 5 ポンド 5 シリングの値が付けられている。しかし書物史上、大きな意義を持つ書物であることは確かである。

表紙で紹介される書物は判ごとに示されているが、フォリオのつぎにはクォート判が 9 種、リストアップされている。クォート判はフォリオよりも一回り小さく、価格も内容も比較的身近なものとなる傾向がある。表紙で紹介されるものは中でも目玉と思われる書物に限定されるが、たとえば Francois Rabelais の作品集全 3 巻は 1741 年にアムステルダムで出版されたもので、複数の美しい版画を含む。批評家の Jacob le Duchat によるエディションである。ラブレーはスターンが好んだ

作家のひとりであり、大いに影響を受けた作家でもある。とは言え、フランス語の書物がクォート判の目玉として紹介されているのは書物自体の価値によるものと推測される。Bernard Picart の版画は、書籍商 Jean Frederick Bernard との協働により卓越した出版物となって 18 世紀ヨーロッパで大いに注目を集めていた。カタログの表紙を飾るにふさわしい話題の書籍であったと考えることができる。クォート判で紹介されている 9 冊のうち、英語以外の書物はこれのみである。

オクテーヴォ判からは 6 種がリストアップされている。オクテーヴォ判は当然のことながら大型本に比較して価格が安い傾向がある。入手しやすい価格帯の判であるし、そもそもの蔵書における冊数も多いことが推測される。しかし目玉となるフォリオ、あるいはクォートに比べて紹介される冊数は少ない。フォリオは当然稀少価値において勝るものが多いのであるが、あえてここで示されたオクテーヴォにはそれなりの理由があって然るべきである。

カタログ表紙に特に示された書籍は、当時の読者層にアピールする要素すなわち稀少価値あるいは人気の高さをを反映するものと考えることができる。



A

CATALOGUE

Of a Curious and Valuable

Collection of BOOKS,

Among which are included

The Entire LIBRARY

Of the late Reverend and Learned

LAURENCE STERNE, *A. M.*

Prebendary of York, &c. &c.

Author of *The Life and Opinions of* Triſtram Shandy, *Gent.* and ſeveral other Works of Wit and Humour.

Moſt of the Books are in good Condition and handſome Bindings.

Among many others, equally valuable, are the following:

FOLIO.

Caxton's Game of the Cheſſe, 1474
Drake's York, *large Paper*
Guillim's Heraldry, *beſt Edition*
Chambers's Dictionary, 2 vols.
Locke's Works, 3 vols.
Stukeley's Itinerary
Rapin's England, 5 vols. complete
Borlaſe's Cornwall, 2 vols.
Dugdale's Warwickſhire
Plot's Oxfordſhire
Gerarde's Herbal, by Johnſon
Mezeray's Hiſtory of France
Mariana's Hiſtory of Spain
Biblia Polyglotta, 6 vol.
Caſtelli Lexicon Heptaglotton, 2 vol.
Hiſtoire du Concile de Trente, 2 tom.

QUARTO.

Oeuvres de Rabelais, 3 tom.
Middleton's Life of Cicero, 2 vols.
Aſtey's Voyages, 4 vols.
Addiſon's Works, 4 vols.
Ducarel on Coins
Long's Aſtronomy
Sanderſon's Algebra, 2 vols.
Magna Britannia, 6 vols.
Doddridge's Expoſitor, 6 vols.

OCTAVO.

Rollin's Belles Lettres, 4 vols.
Grey's Hudibras, 2 vols.
Oeuvres du Philoſophe de Sans-Souci, 2 tom.
Anthologie Franco-ſe, 3 tom.
Septuaginta, Gr. a Grabe, 4 vol.
Ciceronis Opera omnia, Verburgii, 12 vol.

Which will begin to be ſold *exceeding cheap* (the Prices printed in the Catalogue) on *Thurſday, Auguſt* 25, 1768, and continue till all are ſold,

By J. TODD and H. SOTHERAN,

(Succeſſors to the late Mr. *Hildyard*) Bookſellers in *York*;

Who give the utmoſt Value (in ready Money) for any Library or Parcel of Books.

CATALOGUES may be had in *London, gratis*, of Mr. *Becket*, in the *Strand*; Mr. *White*, in *Fleet-ſtreet*; Mr. *Payne*, next Door to the *Mews-Gate*; Mr. *Johnſon*, in *Pater-noſter-Row*; and Mr. *Cater*, in *Holborn*:—Alſo of the Bookſellers at *Cambridge, Oxford, Salisbury, Edinburgh, Glaſgow, Newcaſtle, Durham, Hull, Sheffield, Barnſley, Leeds*; and at the Place of Sale.

図 1

２．書籍商によるブックリストの考察

本カタログに掲載された書籍は、まずは判（フォーマット）別に、そして言語別に分類されている。各アイテムは 2505 番までナンバリングされている。言語別で言うと、英語の書物が 6 割弱を占め、その他は英語以外の言語（おもにフランス語、イタリア語、ラテン語）による。英語の書物の内訳は判で分類すれば冊数の多い順にオクテーヴォ、ドゥオデシモ、フォリオ、クォートとなっている。[6] これらスターンの蔵書を含む書籍群がオークション対象の本である。

一方、このカタログの中にはオークション対象外の本も 2 種のリストになって紹介されている。それらは書籍商 Todd and Sotheran が独自に取り扱う書物のリストである。このようなブックリストは 17 世紀半ばから出現するようになった新刊・既刊本の広告である。紙が貴重であった時代、余白を有効利用するという発想もあって当然だったろうが、この種のリストは巻末のブランクページを使って表れているのを多く目にする。[7] このカタログの場合には Todd and Sotheran の 2 種のブックリストがある。まずは表紙の裏側のページにあるインデックスの下の余白部分を使ったもので、9 種の書物が紹介されている。もう一つのリストはカタログ最後のページの余白を使って示されている。12 冊の本の紹介となっている。これらの短いブックリストからは Todd and Sotheran のさらなるビジネス機略をうかがい知ることができよう。それぞれを分析する。

まず、初めのリストであるが、“New Books printed for and sold by J. Todd and Sotheran, in Stonegate, York.” と断ったうえで新刊の 9 種が示してある。今回のオークション対象の書籍ではないことが当然わかるようになっている。そこで第一に紹介されるのは *A Description and History of the Cathedral City of York* で、地誌の類である。これはヨーク市の歴史を扱う挿絵入り本であり、実際のところ、この本はカタログ表紙で目玉商品として紹介されている Drake による *York* の最初の簡約版（abridgement）である。初版は 1768 年である。価格は 3 シリングで比較的高価であるのは、大型地図を含む銅版画の挿絵によるものと考えられる。また、地域の故事歴史についての書物を扱うのは主要書籍商として当然の業務であった。この簡約版は 2 巻本の第 1 巻であり、第 2 巻は 1770 年に出版された。Francis Drake による *Eboracum* は、そもそも Todd and Sotheran の前の代の Hildyard がフォリオで出版している。それが当時新たな需要があったためにこの小さな簡約版がドゥオデシモで出版されたとのことである。それは旅行者によるポケットサイズの案内書としての需要であった。ヨーク大聖堂は北ヨーロッパ最大のゴシック建築と言われ、18 世紀半ばには国内からますます多くの観光客が訪れるようになっていたからである。

2 点目もまたドゥオデシモで、もともと学生向きに書かれた概論的な英国の歴史書である。著者の John Holmes は、1737 年に英語とラテン語でこの書物を出版した。彼自身は教師であり、他にも数点のテキストを執筆しているのだが、彼によるラテン語やギリシャ語の教科書は 18 世紀の英国で版を重ね、大いに使用されたものである。それらはおもに著者の地元のノーフォーク、そしてロンドンで出版されていたが、この歴史テキストに関しては Todd and Sotheran が販売に関わっている。地理的にも Todd and Sotheran はヨーク市内の中心にあったため、学校の教科書を精力的に取り扱っていたとしてももちろん不思議ではないのだが、特にこの歴史書に関しては、学生だけではなく一般の読者にも人気があり、紳士方に余興の芝居としても使われたほどであったため、売り上げを期待できる書物だったことは間違いない。

つぎは *Religio Laici* で、Stephen Tempest によるコンダクトブックである。判はドゥオデシモ、価格は 1 シリングであった。4 番目もドゥオデシモ、内容は英語とスコットランド語の歌を扱う。ドゥオデシモは小型本で、プレイヤーブックやチャップブックなどがその典型である。プレイヤーブックは祈祷書、手のひらに収まるサイズがちょうどふさわしいものである。チャップブックは 17 世紀からある程度の流通を始めていたが 18 世紀にはさらに普及する。内容は子どものための

読み物や、この例のような歌を集めたものなど、豊富なバリエーションがあった。ドゥオデシモは人々の生活に浸透した判の書物という特徴がある。

つづく5点目・6点目は宗教関連書である。著者はFrancis Blackburneという国教会司祭で、ヨークシャのリッチモンド出身であった。著者にとってTodd and Sotheranは地元の書店ということになる。彼の著作の大部分はロンドンで出版されているが、ヨークの書籍商が扱った本も数点見受けられる。先代のHildyardもかつてBlackburneの本の出版を手掛けている。ここに紹介される*Considerations on the present State of the Controversy* ... は、ESTCではロンドンで出版されたものしかない。一方の*Short Discourse on the Scriptures*はヨークで出版されたオクテーヴォで、ESTCにはこれ以外のエントリーはない。宗教論争に関わる書物を著したBlackburneは、哲学者ジョン・ロックの影響を受け、保守派とは相いれない思想を持つ宗教者であった。それが直ちに書籍商の宗教的思想と合致するものであると決めつけるのは拙速である。書籍商はあくまでも幅広い購買者層を想定し、ブックリストを作成することが可能だからである。

残りの3点も宗教系書物である。ヨークシャの国教会司祭Daniel Watsonによる説教は、フィラデルフィアから教育者William Smithらが訪問した際のものである。続く著者不明の論争書は国教会司祭Thomas Broughtonの著書に関する考察で、ローマカトリック教会への警告的文書である。最後の例も反ローマカトリックの論争書であり、著者はPhilip Bendelowesとされる。

さて、表紙裏のブックリストには上記のような書物が宣伝されている。特記事項としては、Todd and Sotheranが地元の書籍商としてヨークシャに関連する著者の作品を独自に出版、販売していたことがわかる。引き続きカタログ最後に掲載されたブックリストを概観したい。こちらには12点の書物が判別に紹介されている。フォリオとクォートのみであるから、比較的価格が高いものに限定される。内容はと言えば、まずフォリオではMillerによる*Gardener's Dictionary*第8版（1768）がリストアップされる。ここで示される価格も3ポンド3シリングと高価であるが、すでに第8版を数えるほどの人気を博した出版物である。多くの銅版画によるイラストレーションが施された書籍で18世紀を代表する植物図鑑と言える。[8] 次も似た類のもので、*The Complete Farmer*すなわち農業事典とも言うべき書物である。これはSociety for the Encouragement of Arts, Manufactures, Commerce（現在のロイヤルソサエティー）の会員が構成するSociety of Gentlemenによる。農業に関連する書物とは言え、価格から判断してこれらは科学に興味を持つ貴族・ジェントルマン階級をターゲットにしていると考えられる。続いては法律書であり、3巻で4ポンド14シリング6ペンスという高価なセットである。

クォートについては著名な作家の主要作品が並び、まずはFrancis Baconの作品集、これは5巻セットで5ポンド5シリングという価格である。つづいてはJohn Lockeの作品集で4巻、4ポンド4シリングである。ともに高価であるし、金で縁飾りが施されていることから、ジェントルマンの書斎にふさわしい書籍であったことがうかがえる。Robert Whyttはエジンバラ出身の医学者で、新たな論を展開し数々の著作を発表した。彼の没後に息子が全集として発表したのがこのリストに掲載されたものである。その他、最後に示されるLord Herbert of Cherburyによる教育論は、著者とされるEdward Herbertの没後1世紀以上を経て初めてマニュスクリプトから印刷されたものである。これらはTodd and Sotheranが販売のみ扱った書物である。

こちらのリストにおける12点は、当時話題になっていた書物の中から、おそらく高価なものを選択してリストアップしたものであろう。法律書が2点含まれていることから、法曹界の読者を想定していることも推測できる。また、詩、ギリシャ・ローマ古典、数学など、当時比較的普及していただろうジャンルの本はここには掲載されていない。書籍商の嗜好が現れていると言えるだろう。

まとめ

スターンの蔵書についてはニコラス・バーカーが発表した論文にその研究が見られて久しいのであるが、ばらばらに売買されたライブラリーであるがゆえに全体像を把握するのは困難である。ピープスやカズンのライブラリーのように、現在でもまとまった形で閲覧できるようであれば状況は異なっていたはずだ。書物愛好家であれば本の装丁、バインディングに凝ったり、あるいは本を並べる場所にこだわりを持ったりするものである。だがしかし、いずれにせよスターンのライブラリーをピープスやカズンのライブラリーと簡単に比較することはできなかっただろう。それは、スターンが牧師館に住んでいたからである。つまり、牧師館には地域の信徒が訪れ、牧師の蔵書は必ずしも個人のコレクションではなく、信徒のためのライブラリーでもあったはずだからだ。したがって、蔵書の傾向がスターン個人の思想や嗜好をすっかり反映するとは言えない。

それでは、このカタログの価値をどこに見出すことができるだろうか。上述の事柄を念頭に置けば、スターンの蔵書の価値は、このカタログによって、一個人の読書歴を裏付ける資料という存在から、書籍商とそれを取り巻く同時代の社会の一側面を映し出すものへと形を変えたと言える。なぜなら、ヨーク市の書籍商 Todd and Sotheran が故ローレンス・スターンの蔵書をどのようにして販売したか、どのように書物を分類してそしてどういった顧客層を念頭に置いてリストを作成したのかなど、数多くの事実が明らかにされるからである。

ローレンス・スターンの蔵書全体を含む数千点の書籍をオークションによって捌くという試みがなされたとき、書籍商 Todd and Sotheran は多くの客の興味を引く方法を考えたことであろう。書物を言語別（英語・英語以外）に分類し、さらに判（フォリオ・クォート・オクテーヴォ他）に分け、価格をつけられるものには価格を記した。さらにはカタログの表紙を最重視して厳選した情報を列挙している。一方の書籍商によるブックリストは 17 世紀半ばから英国で始まった書籍の広告であるが、Todd and Sotheran が独自のブックリストを挿入し、店で取り扱う書籍を広告していることによって、このオークションカタログの中で書籍商の個性はますます明確に示されることになる。このように、スターンの蔵書カタログは当時の社会のいくつかの側面を映し出す歴史的資料とみなすことができる。

主要参考文献・資料

一次資料

"A Catalogue of a Curious and Valuable Collection of Books Among Which Are Included the Entire Library of the Late Reverend and Learned Laurence Sterne" (1768)

二次資料

Barker, Nicholas. "The Library Catalogue of Laurence Sterne," *The Shandean* Vol 1, (The Laurence Sterne Trust), 9-24, November 1989

English Short Title Catalogue (www.estc.bl.uk/)

Oxford Dictionary of National Biography (www.oxforddnb.com)

註

1）本論考は、2012 年 10 月 25 日「科研費による書物史国際研究集会」（於：甲府市）において「18 世紀英国における 17 世紀書物の受容 ～ローレンス・スターンの蔵書を例に～」というタイトルで行った口頭発表をもとに大幅な加筆を行ったものである。この集会には英国ローレンス・スターン財団シャンディホール館長のパトリック・ワイルドガスト氏を特別講師として招聘した。また、ワイルドガスト氏からはスターンのライブラリー研究に関して貴重な助言・資料を提供していただいた。

2）Nicolas Barker, "The Library Catalogue of Laurence Sterne," *The Shandean* Vol 1, (The Laurence Sterne Trust), 9-24, November 1989 参照。

3）英語による最初の本は William Caxton によってブルージュで印刷された *History of Troy*（1473/74）である。

4）Drake についてはつぎの記事から情報を得ている。C. Bernard L. Barr, 'Drake, Francis (bap. 1696, d. 1771)', Oxford Dictionary of National Biography, Oxford University Press, 2004 [http://www.oxforddnb.com/view/article/8023, accessed 10 Sept 2013]

5）Duncanson という名前は、ヨーク市内のブックバインダーとして 19 世紀の資料に記録が残っている。Catherine Duncanson および George Duncanson（1801 年および 1823 年版 "Baine's Directory of the County of York" より）である。一族であるのかは不明だが、

それぞれが構えた店は地理的に接近しており、関係が深いと考えても差し支えないだろう。18 世紀の Catherine 以前の Duncanson については調査を継続している。

6）その他に「アペンディクス」としてカタログの後ろに付録的に 153 冊の書籍が追加されている。それはほとんどが英語のものに限られていて、フォリオが 16 冊、クォートが 12 冊、オクテーヴォが 60 冊、ドゥオデシモが 75 冊あり、当初のカタログと付録的なアペンディクスに追加された書物を総計して、全 2505 冊となる。

7）ブックリストは巻末にあることが多いが、この例と同じくタイトルページの裏であったり、巻の区切りの部分に見受けることもある。

8）Todd and Sotheran は販売のみ手がけていた可能性が高い。